教科年間学習指導計画

教科名	国語	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	国語表現	単位数	2
教科書	国語表現（大修館書店・現国701）		
準教科書	なし		

シラバス

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身につけている。	「話すこと・聞くこと」において、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫する力を身につけている。	わかりやすく正確に文章で説明しようとしている。
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基に、身近な例や社会の出来事などを交えながら読解力を深める。 プリントやノートを用いて、学習状況の確認を行う。 振り返り学習を行いながら、基礎基本の定着を図りつつ学習を進める。 		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の出席を基本とし、学習用具（教科書、ファイル、ノート、筆記用具など）は忘れないこと。 わからないことはそのままにせず、その都度質問し、疑問解消に努めること。 授業規律を遵守すること。 学習、授業の妨げとなるような行動をとらないこと。 		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

授業の内容	学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
授業の内容	1学期	4	13	レッスン1 言葉と表記	言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解し、言葉や表記の大切さを理解している。	「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするための言葉と表記を正確に判断して工夫している。	正しい表記や語彙を豊かにすることについて積極的に取り組もうとしている。	主体 自己 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門			
					6	12	レッスン2 整った文を書く		書き言葉の特徴について理解を深め、係り受けを整えたり文末表現を統一したりすることについて理解している。	「書くこと」において、事象を的確に描写したり説明したりするために、相手に応じた言葉遣いを的確に使い分けられている。	練習問題を解くことをとおして、文を整えて書く学習に対して積極的に取り組もうとしている。
		7	10	レッスン3 相手に応じた言葉遣い					話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解し、適切に使い分けられている。	「書くこと」において、事象を的確に描写したり説明したりするために、相手に応じた言葉遣いを的確に使い分けられている。	相手に応じた言葉を使い分けることについて、積極的に取り組もうとしている。
									8	5	レッスン4 わかりやすい文を書く
		2学期	10	7	レッスン5 文のつなぎ方	自分の思いや考えを多彩に表現するために、接続表現の種類や働きを知り、文章の中で適切に用いている。	「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるよう、接続表現の使い方を吟味し文章全体を整えている。				
	11					7	レッスン1 自分を見つめて		言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解している。	「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、自分に関わる事柄の中から話題を決め、他者と話し合いながら情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。	自分のこれまでの人生を振り返ってまとめる活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
			12	10	レッスン2 効果的な自己PR				言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けられている。	「話すこと・聞くこと」において、自分の思いや考えが伝わるよう、具体例を効果的に配置するなど、話の構成や展開を工夫している。	効果的な自己PRをすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
									1	6	働く人にインタビュー
	計		70								

				北海道苫小牧工業高等学校 定時制課程【令和6年度】					
教科年間学習指導計画				教科名	地理歴史	学年・クラス	3年工業技術科		
シラバス				科目名	歴史総合	単位数	2		
				教科書	歴史総合(実教・歴総704)				
				準教科書	なし				
育成を目指す 資質・能力	知識・技能		近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、現在の社会が成立し発展する過程を理解し身に付けている。現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、それを的確に用い社会的な事象を考察することができる。	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
	近現代史を中心とする日本の歴史の展開から課題を見だし、日本を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。		歴史を学ぶ意義に気付き、近現代に至る歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ考え、関心を持って学習に取り組むことができる。						
学習の進め方	①教科書の内容を中心に、歴史的事象を様々な視点から説明し、生徒の理解を深める。 ②映像などの資料を示すことにより、歴史的事象を理解しやすいように学習を進める。 ③ノート・ワークシートなどを用いて学習状況の確認を行う。 ④他の科目など(公共、地理総合、政治経済)と関連させながら、学習を進める。								
学習の留意点	①毎時間の出席を基本とする。授業に使用する物(教科書・ノートなど)は、忘れず準備すること。 ②板書事項はノートに書き留め整理しておくこと。また、授業中に提示された課題は毎時間ごとに取り組むこと。 ③授業における疑問・質問は放置せずその都度解消するように努め、意見・感想を発言するなど、積極的な姿勢で授業に参加すること。 ④日頃から、社会の出来事やニュースと学習事項との関連性を意識しておくこと。								
評価の方法	出席状況・授業態度・ワークシートなど提出物の取組み状況・授業時間内に行う単元テストを基に、「評価の観点(3項目)」に照らした評価を元に、総合評価を行う。								
学 期	月 別	時 間	評 価 基 準						
			単 元	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	資 質 能 力		
授 業 の 内 容	1 学 期	4	4	第1編 近代化と私たち	近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、現在の社会が成立し発展する過程を理解し身に付けている。現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、それを的確に用い社会的な事象を考察することができる技能を身に付けている。	近現代史を中心とする日本の歴史の展開から課題を見だし、日本を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる力を養っている。	歴史を学ぶ意義に気付き、近現代に至る歴史的事象と現在との結び付きを意欲的に調べ考え、関心を持って学習に取り組む主体としての自覚などを深めている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門	
			5	6	1. 近代化への胎動 2. 欧米の市民革命 3. 西欧の衝撃 4. 国民国家の形成 5. 帝国主義の時代				
			6	8					
			7	4					
		8	4	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち					
		9	8	1. 第一次世界大戦と大衆社会 2. 経済危機と第二次世界大戦 3. 冷戦と脱植民地化					
		10	8						
		11	8						
		12	6						
2 学 期	1	4	第3編 グローバル化と私たち	第1編と第2編の学習で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や歴史的な展開の中で発生する諸事象を理解するための基本的視点を活用するとともに、第1編及び第2編で習得した知識及び技能を活用している。	地域の創造や、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、ともに生きる社会を築いていくという観点から課題を見出し、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に自分の考えを説明、論述している。	よりよい社会の実現を視野に入れつつ、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見出し、諸課題を主体的に解決しようとしている。			
	2	6	1. 多極化する世界 2. グローバル化と現代世界						
	3	4							
計		70							

教科年間学習指導計画

教科名	数学	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	数学Ⅱ	単位数	2
教科書	新編数学Ⅱ（啓林館・数Ⅱ707）		
準教科書	なし		

シラバス

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、自称を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察している。座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察している。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察している。関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察している。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・例題などを用いて解法の解説を行い、それに関連する練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。 ・授業内容は各自ノートに記載し、授業の最後に提出する。また、必要に応じてプリント提出を課す。 ・本時の内容や前時の内容の理解度を確認する小テストを実施する。 ・いくつかの単元ごとに内容の理解度を確認する単元テストを実施する。 		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は学習に集中して取り組み、小テストで確実に得点をとることができるようにする。 ・ノート、プリントなどの提出を課されたものは確実に提出する。 ・学習の障害になると判断される行動をとらない。 		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
授 業 の 内 容	1 学 期	4	第1章 式と証明	多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。	実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	主体 自己 継続 思考 対応 基礎
		4	第1節 整式の乗法・除法と分数式				
		5	2				
		4	第2節 等式・不等式の証明				
		6	8				
		7	6				
		8	第2章 複素数と方程式				
	9	3	第2節 因数定理と高次方程式				
	4						
2 学 期	10	5	第3章 図形と方程式	座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。軌跡について理解し、軌跡を求めることができる。不等式の表す領域を求めたり、領域を不等式で表したりすることができる。	座標平面上的図形について、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。数量と図形との関係に着目し、軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	主体 自己 継続 思考 対応 基礎
	11	5	第1節 点と直線				
	5	第2節 円					
	12	5					
	1	4					
2	8	3	第3節 軌跡と領域				
3	3						
計	70						

教科年間学習指導計画

教科名	理科	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	物理基礎	単位数	2
教科書	新編 物理基礎 (数研・物基708)		
準教科書	なし		

シラバス

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動など、様々な物理現象について、力やエネルギーなどの基礎的な概念から理解することができると共に、物理学的に探求するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間生活と関連のある様々な物理現象について、課題を見だし、実証的・論理的に考察・予測をし、見直しをもって実験・観察・分析することができる、またそれを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な物理現象に進んで関わり、物理学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則について、論理的に分析することに対する興味・関心を高めている。

学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 各時におけるテーマに関する教科書の内容について定式化し、物理現象への理解を深める。 教科書の内容に関する課題に取り組み、科学的な思考力を磨く。 実験プリントに沿って課題に取り組み、実験の技能や観察力を養う。
--------	---

学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 計算を要する課題があるため、毎時間電卓を使用する。 授業や実験に関する課題プリントを課すので、期限を守って提出する。
--------	---

評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 主に授業及び実験のプリント達成状況、単元テストの得点を総合的に判断し、評価する。
-------	--

学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
授 業 の 内 容	1	4	9	1編 運動とエネルギー ・運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 直線運動について、加速の概念も含めて観察・思考し、その動きを分析・予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動に興味を持ち、その分析と表現について意欲的に学習しようとする。 	主体 継続 思考 判断 基礎	
		5							
		6	15	・運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 物体に働く様々な力について、その種類や表し方などを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動と力の関係について、ニュートン力学の視点で、分析・思考し、予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動と力の関係について興味を持ち、その分析と思考について意欲的に学習しようとする。 		
	7	8	12	・仕事と 力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギーについて、仕事の概念と関連づけて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動について、力学的エネルギーの保存則の視点で、分析・思考し、予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動と仕事やエネルギーの関係について興味を持ち、その分析と思考について意欲的に学習しようとする。 		
	8								
	9								
	2	10	6	2編 熱 1. 熱とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 熱と温度について、原子や分子の熱運動の視点から理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 熱の移動や仕事の変換について、熱力学の法則で、分析・思考し、予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 熱や温度とエネルギーの関係について興味を持ち、意欲的に学習しようとする。 		主体 継続 思考 判断 基礎
		11							
		12	12	3編 波 1. 波の性質 2. 音	<ul style="list-style-type: none"> 波の性質について、その伝搬や干渉の原理などを通して理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の共鳴や音波の性質について、波の性質から、分析・思考し、予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 波の基本的な性質とそこから導かれる音波の性質について興味を持ち、意欲的に学習しようとする。 		
12									
1									
期		1	12	4編 電気 1. 物質と電気抵抗 2. 磁場と交流	<ul style="list-style-type: none"> 物質ごとの抵抗率の違いなど、電流について電子の移動の視点から観察し、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電流の磁場の関係から、電磁誘導を利用した交流の発電やその性質について、分析・思考し、予測することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電磁気の基礎的な現象について興味を持ち、意欲的に学習しようとする。 		
	2								
	3	4	5編 物理学と社会 1. エネルギーの利用	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの変換や利用について、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なエネルギーの性質やその利用について、考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー資源などに興味を持ち、意欲的に学習しようとする。 			
計		70							

				北海道苫小牧工業高等学校 定時制課程【令和6年度】					
教科年間学習指導計画				教科名 保健体育		学年・クラス 3年工業技術科			
シラバス				科目名 体育		単位数 1			
				教科書 なし					
				準教科書 なし					
育成を目指す 資質・能力	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度				
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解する。目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。		自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫できるとともに、それらを他者に伝えられる。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断できるとともに、それらを他者に伝えることができる。		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組むことができる。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができる。				
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉授業及び、男女共修で授業を展開する。 ・単元毎に実技（授業）を進める上で自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるようになる。 								
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・他との協調性を身に付けるとともに、運動に親しむ姿勢を身に付ける。 ・一斉授業又はグループ学習により、生徒の自主性、協調性、責任感などを育てる。 <p>【服装について】</p> <p>指定ジャージ・指定上靴を着用すること。</p>								
評価の方法	「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に判断し評価する。								
授 業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	資 質 能 力
	1	4	2	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・集団行動	・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするこ、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	他 続 判 断 基 礎	
		5	8	・バスケットボール	・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするこ、作戦などについての話し合いに貢献しようとするこ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするこ、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	主 体 自 他 続 判 断 対 応	
		6			・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。				基 礎
		7	8	・バレーボール	・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。				続 判 断 対 応
		8							基 礎
		9	3	・体育理論 ・新体力テスト	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。	思 考 判 断 基 礎	
		10	6	・フットサル	・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするこ、作戦などについての話し合いに貢献しようとするこ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするこ、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	主 体 自 他 続 判 断 対 応	
		11			・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。				主 体 自 他 続 判 断 対 応
		12							主 体 自 他 続 判 断 対 応
	1	8	・バドミントン	・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。				主 体 自 他 続 判 断 対 応	
	2							主 体 自 他 続 判 断 対 応	
	3							主 体 自 他 続 判 断 対 応	
計		35							

教科年間学習指導計画

教科名	美術	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	美術 I	単位数	2
教科書	高校生の美術 1 (日文・美 I 301)		
準教科書			

シラバス

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・美術作品の表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。 ・創造的な美術の表現に必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法に工夫をこらしている。	・感性や創造性を働かせ感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構成を練っている。	・美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。
学習の進め方	「A表現（1）絵画・彫刻」、「A表現（2）デザイン」、「A表現（3）映像メディア表現」、「B鑑賞」の内容を実技を中心に学習していく。		
学習の留意点	授業に必要な教材を忘れずに用意し、作品製作にしっかりと取り組む。		
評価の方法	出席状況・授業態度・作品製作の取組状況・作品の完成度を評価する。		

学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
授 業 の 内 容	4	1	授業オリエンテーション				
	4	5	色彩学概論	・色彩などが感情にもたらず効果を知り、活用できる。	・身の回りの色や形のよさや美しさを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げている。	・色彩を活用するための知識を定着する主体的な取り組みができる。	主体 思考 基礎
	5	6					
	6	7	感情を表現する	・色彩学概論で得た色彩と感情効果の知識を活用できている。	・伝えたい内容に相応しい形や色、構図などを考え、表現を工夫し、主題を追求して創造的に表現している。	・主体的に自己を見つめ、感じ取ったことをもとにした表現活動に取り組もうとしている。	主体 自他 思考 基礎
	7	6					
	8	4	和皿のデザイン	・形や色彩、材料などの性質及びそれらが感情にもたらず効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。	・目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取り、主体的に話し合う姿勢がみられる。	主体 自他 コミ 思考 基礎
	9	6					
	10	6	円の構成	・ガラス皿の特性を理解したうえで素材を生かしたデザインができる。	・皿の目的や機能を考え、構造に合わせたデザインができる。	・生活の中の工芸品に関心を持ち、ガラス皿の特性や加工方法を理解して制作に取り組むことができる。	主体 思考 基礎
	11	4					
	11	3	サンドブラスト加工によるガラス皿制作	・ガラス皿の特性や加工方法を理解して制作に取り組むことができる。	・皿の目的や機能を考え、材料や用具の特性を生かし、工夫して表現している。	・皿の構造の工夫や美しさを味わい、見方・感じ方を深める創造活動ができている。	主体 思考 基礎
12	6						
1	4	ゼンタングルによるトートバック制作	・造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	・作品の全体や部分との関係を考えて構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	・作品から良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫について幅広く考えている。	主体 思考 基礎	
2	3						
2	3	鑑賞 アニメーションの世界	・アニメーションの特質や表現効果などを理解し、作品の意図をとらえている。	・アニメーションの撮影の工夫や創造的な表現について考え、見方・感じ方を深めている。	・主体的にアニメーションの動かし方について考え、その制作に関心を持っている。	主体 思考 基礎	
3	6						
計	70						

教科年間学習指導計画

教科名	工業	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	実習	単位数	3
教科書	なし		
準教科書	なし		

シラバス

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	金属加工および木材加工に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ものづくりを合理的に計画したり、技術を適切に活用しようとしている。	金属加工および木材加工に関する基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	金属加工および木材加工に関する諸課題について関心を持ち、今までに習得した知識や技術を応用しながら実践的・主体的に取り組もうとしている。

学習の進め方	①毎時間の始めに、本時の作業内容・予想される事故を確認してから実習を開始する。 ②1班3テーマ展開とし、各テーマは前後期とも3時間×6週を基本とする。
--------	--

学習の留意点	①毎時間の出席を基本とする。 ②欠席した場合または実習時間内に作品や課題を提出できない場合は、各テーマ担当教員に対して補習対応などを依頼する。 ③作業服や安全防具などを必ず着用し、常に安全な作業を心掛ける。
--------	---

評価の方法	実習内容ごとに評価を行い、学年末に担当全員で協議したうえで最終評価を決定する。
-------	---

授業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準			資 質 能 力		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
授業 の 内 容	1 学 期	4	9	板金溶接 バーベキューコンロの 製作	・各種機械と加工方法について理解している。 ・実習の方法を把握し、完成度の高い作品を作成することができる。	・指導された内容を理解した上で、効率のよい作業方法を自ら考え判断し作業を行うことができる。	・実習内容に関心をもって担当教員の指導を聞き、安全に配慮した作業を行うことができる。	主体 継続 思考 判断 基礎 専門		
									5	9
		6	12	木材加工 I 木製ツールtype2 の製作						
									7	3
		8	6	11						
									9	12
	10	12	3	6	計	105				

教科年間学習指導計画

教科名	工業	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	製図	単位数	2
教科書	製図(実教・工業707)		
準教科書	なし		

シラバス

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	製図に関する事象について、基本的な概念や基礎的な知識を理解し、読図・作図の技能を身につけている。	製図に関する事象について、論理的に考えたり、分析したりして、総合的に判断できる。また、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。	製図に関する事象について関心を持ち、主体的・協働的に取り組む態度を身につけようとする。

学習の進め方	①JW-CADの操作法を習得する。 ②練習課題(RC躯体図、通り芯寸法図など)の作図を繰り返す。 ③応用課題(木造住宅平面図)の作図に挑戦する。
--------	--

学習の留意点	①毎時間の出席を基本とする。 ②欠席した場合または期限内に課題を提出できない場合は、担当教員に対して補習対応などを依頼する。 ③与えられた課題は期限内に提出する。
--------	---

評価の方法	出席状況、提出物、授業の取組状況などを総合的に評価する。
-------	------------------------------

学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準			資 質 能 力
				知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
授 業 の 内 容	1	4	第5章 CAD製図	・CADシステムの概要・構成・規格に関する知識を身につけ、CADシステムの機能を習得している。 ・JW-CADの特徴を理解し、作図の技能を習得している。	・CADシステムの概要・構成・機能などについて考察できる。 ・JW-CAD作図について考察できる。	・CADシステムは手書き製図と比較してどのような利点があるか理解し、意欲的に学習に取り組もうとする。 ・JW-CADによる作図に関心がある。	主体 継続 思考 判断 対応 基礎 専門
		5					
		6					
		7					
		8					
	2	9	第5章 CAD製図	・CADシステムの概要・構成・規格に関する知識を身につけ、CADシステムの機能を習得している。 ・JW-CADの特徴を理解し、作図の技能を習得している。	・CADシステムの概要・構成・機能などについて考察できる。 ・JW-CAD作図について考察できる。	・CADシステムは手書き製図と比較してどのような利点があるか理解し、意欲的に学習に取り組もうとする。 ・JW-CADによる作図に関心がある。	主体 継続 思考 判断 対応 基礎 専門
		10					
		11					
		12					
		1					
計	70						

教科年間学習指導計画

教科名	工業環境技術	学年・クラス	3年工業技術科
科目名	工業環境技術	単位数	2
教科書	工業環境技術（実教・工業754）		
準教科書	なし		

シラバス

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	環境問題の種類やその特徴を理解し、環境保全に求められる基礎的な環境技術や方策に関する知識を身に付けている。また、環境問題や環境技術を理解するために、情報の検索と選択や資料の活用のほか、調査・実験についても適切に行うことができる。	身近な環境問題から地球環境問題までを系統的にとらえ、人類が環境に与える影響や人間と環境技術が果たす役割について思考・判断することができる。また、環境問題を解決するための方策や考え方を論理的かつ創造的に表現することができる。	環境問題や環境保全技術に関心を持ち、環境にかかわる諸課題の探求と問題解決のため主体的に学習することができる。また、環境問題と環境保全技術を理解するために既存の知識と新たに習得した知識を融合して探求的な学習活動を行うことができる。

学習の進め方	①教科書に沿った内容の授業を基本とする。 ②単元終了ごとに単元テストを実施する。 ③必要に応じて個人面談を行い、学習の評価・改善を行う。
--------	--

学習の留意点	①毎時間の出席を基本とする。 ②授業に必要なもの（教科書、ノート、プリントファイルなど）は忘れずに準備する。 ③与えられた課題は期限内に提出する。
--------	---

評価の方法	出席状況、提出物、授業の取組状況、単元テストの結果などを総合的に評価する。
-------	---------------------------------------

学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準			資 質 能 力
				知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
授 業 の 内 容	1 学 期	4 7	第1章 地球と人類	世界人口の増加と資源消費の拡大にともなう諸問題を理解することができる。	人間の経済活動や生産活動が世界の資源消費に与える影響について考察することができる。	資源をめぐる諸問題や世界の国々と人々の生活と資源とのかわりについて理解しようとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 基礎
		5 2					
		6 6	第2章 社会と環境	環境保全を目的とした法律や制度の主旨を理解することができる。	国や自治体、事業者、市民、技術者に求められていることと果たすべき役割について考察することができる。	環境に関する法律相互の関係や環境アセスメントの手順を理解しようとしている。	
		3					
		7 7	第3章 地球温暖化とエネルギー	エネルギー資源の利用形態および高効率な利用技術に関する知識を身に付けることができる。	エネルギー利用技術の種類ごとに長所と短所を判断することができる。	いろいろな発電方法やエネルギーの転換・利用技術に興味・関心を持ち、理解を深めようとしている。	
8 2							
9 7	第4章 廃棄物とリサイクル	廃棄物の分類および一般廃棄物と産業廃棄物の排出量と処理方法に関する知識を身に付けることができる。	廃棄物の抑制と3Rの取り組みから望ましいごみ処分方法について判断することができる。	廃棄物をめぐる諸問題を解決するために思考を整理しながら学習を進めようとしている。			
2 学 期	10 11	8 3	第5章 地域環境の保全	感覚公害の種類と特徴について理解するとともに、騒音を算出するために数学的な計算を行うことができる。	悪臭など人間が感覚的に感じる量と騒音など物理的な測定値で表すことができる量を比較することができる。	音に関する特性や音の数値化を理解するために対数やデシベルなどの数学的・工学的な知識を習得しようとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 基礎
	2 2	7 3	第7章 都市・生活と環境	環境保全を進めていくためにはまちづくりや地域づくりが重要であることを理解している。	環境保全を進めていくために効果的な手法を考察することができる。	地域の環境保全を進めるためいろいろな意見を取り入れながら学習を進めようとしている。	